

的に改善するもその後再び、不定愁訴出現し低ナトリウム血症を契機として ACTH 単独欠損症と診断された。ACTH 単独欠損症の多くは上記のような不定愁訴を呈することが多い。特に老人の不定愁訴は精神科的な疾患として治療されている事が多く、より注意深い診察が必要と考えられた。

#### 25. 低血糖による意識障害で発症 ACTH 単独欠損症の1例

桜井健一, 新井康弘, 杉岡 充爾  
 鶴沢秀徳, 水谷文雄, 古川洋一郎  
 金子作蔵 (国保成東)

ACTH 単独欠損症は、比較的稀な疾患であり、その病因はまだ、明らかとなっていない。今回、我々は、既往歴として脳血管障害があり、ウイルス性髄膜炎を契機として、低血糖昏睡をきたし、血中コルチゾール、ACTH、尿中17-OHCS の低値より二次性副腎機能不全が疑われ、各種の下垂体前葉ホルモン分泌刺激試験から、ACTH 単独欠損症と診断した一例を経験したので報告する。

#### 26. 千葉地区における法定伝染病の最近の動向

清宮晃一, 関 直人, 橋本真一郎  
 橋川嘉夫, 中村 貢, 小関 秀旭  
 遠山敬介, 三上恵只 (千葉市立)  
 群 美夫 (同・検査科)

今回我々は過去5年間における千葉地区の法定伝染病患者の収容状況を検討した。特色として輸入感染例が大半を占め、中でも赤痢菌チフス菌感染の症例が多かった。推定感染地が外国の場合20~30歳の若年旅行者に多く、東南アジアからの帰国者に多かった。年度別総数は横ばいだが、赤痢菌特にシベラゾンネによる割合が増加傾向にあった。これら腸管法定伝染病の治療にはニューキノロン系抗生剤が有効であった。

#### 27. G-CSF が有効であったメチマリール惹起性無顆粒球症の1例

筆内 章, 藤井りゑ, 林 良明  
 永井 順 (沼津市立)

メルカゾール投与によって無顆粒球症が生じた患者に対し、積極的に G-CSF の投与を施行し、また、血中 G-CSF 濃度についても測定してみました。その結果、G-CSF の早期投与が著効を示し、また、無顆粒球症の

病状把握や治療過程において血中 G-CSF 濃度の測定は有用であると考えられました。

#### 28. スイート病で発症した急性骨髄性白血病の1例

関 直人, 橋本真一郎, 清宮晃一  
 橋川嘉夫, 中村 貢, 小関秀旭  
 三上恵只 (千葉市立)  
 浅井隆善 (千大・輸血部)  
 王 伯銘, 吉田 尚 (同)  
 田辺恵美子 (同・皮膚科)

症例は51歳の男性で、平成5年9月、皮疹発熱、貧血様症状を主訴に当院入院した。精査の結果、スイート病を合併した急性骨髄性白血病(AML)と診断した。スイート病は非定型的な bullous type で、皮膚生検により診断し得た。ステロイド剤の使用で改善がみられたが、減量とともに増悪傾向を認めた。また AML は多剤併用化学療法に対して抵抗性でありスイート病の再発との関連が考えられた。

#### 29. 気管食道瘻にて死亡した顆粒球減少症の1剖検例

毛里あかね, 渋谷正徳 (松戸市立)  
 柏村 真 (同・救急部)  
 平井康夫 (同・消化器科)  
 浅沼勝美 (同・病理)

症例は49歳女性。精神分裂病にて入院中、93年7月14日より発熱、WBC 400にて向精神薬による顆粒球減少症を疑い22日当院紹介となった。WBC 増加に伴い解熱したが、8月5日著明な喘鳴と大量下血を認め、内視鏡、気管支鏡にて重度のカンジダ食道炎と気管食道瘻を認めた。剖検にて気管食道瘻は食道炎による潰瘍が穿孔したもので潰瘍部にカンジダを認めたため、その原因としてはカンジダ食道炎が強く疑われた。

#### 30. 各種副腎疾患における ACTH 負荷副腎静脈採血の有用性について

中尾圭太郎 (横浜労災)

副腎疾患の診断は各種内分泌検査や画像診断により、かなりの確に病変の局在が明らかにされるようになってきたが、一部には病変の部位診断が困難な例もある。このような症例の診断に ACTH 負荷副腎静脈採血を行い、その有用性を検討した。

選択的副腎静脈採血で病巣の局在を限定できない症例でも、ACTH 負荷前後の副腎静脈採血を行うことで、